

研究機関：広島大学

研究課題名	転移性大腸腫瘍の形態学的特徴と診断
研究責任者名	広島大学病院 内視鏡診療科 教授 田中 信治
研究期間	2022年2月25日(倫理委員会承認後)~2023年12月31日
対象者	2010年1月から2021年12月の間に、転移性大腸腫瘍と診断された患者さん。
意義・目的	<p>転移性大腸腫瘍は、隣接あるいは非隣接臓器の悪性腫瘍が大腸へ転移したものを指しますが、極めて少ない疾患であり、また多彩な形態を呈するため診断が困難なことがあります。</p> <p>本研究では、転移性大腸腫瘍の臨床的特徴や形態学的特徴を解析することで、原発臓器や浸潤様式との関連を解明します。この結果により、転移性大腸腫瘍やその原発巣の診断と、それによる迅速な治療介入を可能とする意義を有します。</p>
方法	<p>本研究は、診療録（カルテ）情報を用いて、病変の部位や形態、原発臓器などを調査します。使用する情報は、性別、診断時年齢、原発臓器、症状、転移性大腸腫瘍の診断契機、腫瘍の部位、個数、腫瘍径、形態学的特徴、湿潤様式、原発巣の治療法、予後です。</p> <p>なお、個人を特定可能な情報は解析には用いません。</p>
既存試料・情報の提供機関	<p>広島市立安佐市民病院、県立広島病院</p> <p>各機関において個人を特定可能な情報を削除し匿名化した情報が本学へ提供され、本学にて解析を行います。</p>
試料・情報の管理責任者	広島大学病院 教授 田中信治
個人情報の保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。</p> <p>研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生じることはありません。</p>
問合せ・苦情等の窓口	<p>〒734-8551 広島県広島市南区霞 1-2-3</p> <p>Tel: 082-2551-5939</p> <p>広島大学病院 消化器・代謝内科 診療准教授 岡 志郎</p>